

ウィズコロナ時代に考える 養成課程の魅力

山浦 直晃／大高 努／佐竹 聡／南村 恵三／遠藤 純一

今年も中小企業診断士の養成課程の募集が始まる季節がやってきた。が、昨今とは事情が少し異なる。コロナ危機は、診断士試験の受け方や結果にも影響を及ぼした。では、登録養成機関とその受講生には、どのような影響があるのだろうか。

第1章では、登録養成機関にインタビューを行い、コロナ対応とリモート講習をテーマに、受講生の現状と今後の展開について話を伺った。

第2章では、修了生で活躍しているプロコンを厳選して紹介するとともに、「養成課程に行って良かった!」という、そのホンネに迫った。

- 第1章 登録養成機関に聞く コロナ対応とリモート講習
- 第2章 修了生に聞く 養成課程で養えるプロコンの実践力
- 付録 養成課程・登録養成課程実施機関の概要一覧

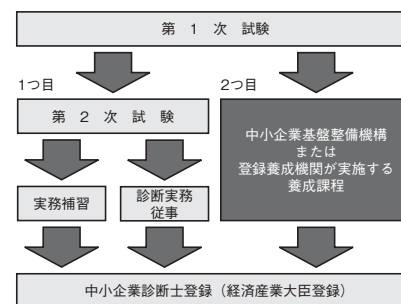
立ち読み版

登録養成機関に聞く コロナ対応とリモート講習

山浦 直晃／大高 努／南村 恵三 中小企業診断士

中小企業診断士（以下、「診断士」）になるためには、2つの方法があります。1つ目は、診断協会が実施する第1次試験と第2次試験に合格後、実務補習を修了するか、診断実務に従事することで、診断士として登録する方法です。2つ目は、第1次試験合格後、中小企業基盤整備機構または登録養成機関が実施する養成課程を修了することで、診断士として登録する方法です（図表1）。

図表1 中小企業診断士登録までのステップ



養成課程のカリキュラムは、演習と実習で構成されます。演習では、グループワーク主体の討議を行います。実習では、実際に中小企業に出向き、現地調査とトップインタビュー、問題点把握、課題抽出、解決策立案、報告書作成を行い、トップ向けに報告会を実施します。

「中小企業支援事業の実施に関する基準を定める省令」には、演習と実習の合計時間は642時間以上と定められています。実施期間は登録養成機関によって6ヵ月から2年と幅がありますが、基本的にこの時間は同じです。MBAなどの資格が取得できる大学院系の登録養成機関では、演習と実習に加えて、各資格を取得するための時間が、別途設けられています。

昨今のコロナ禍の影響が、診断士試験にも出ています。第2次試験においては、2020年度、受験自粛を理由に受験しなかった受験生を対象に、受験可能期間が1年間延長されました。養成課程も、長期間にわたって演習と実習を継続するため、登録養成機関・受講生ともコロナ禍の影響を受けるはずでした。

第1章では、登録養成機関にインタビューを行い、コロナ禍への対応と受講生への影響についてお話をうかがいました。コロナ禍の影響だけでなく、養成課程を修了することで、投資（学費）に見合う力が身につけられるのかも気になります。

第2章では、独立診断士として活躍している養成課程修了生たちにインタビューしました。全員が、診断士になって、養成課程出身であることがプラス面に働く場面が多かったと述べていたことが印象的でした。